# 学校図書館 Take Off！

No.22

八王子に学校図書館を育てる会

本号の目次


トピックス　子どもゆめ基金助成事業報告
広瀬恒子さん講演会「子どもの本を読みましょう」――――P. 2-3
特集：会員が見つけたこんな本・あんな本――――P. 4-5
絵本・児童書・YA・科学の本
2017年度要望書への回答――――P. 6
本に触れる旅　会員研修～アンデルセン展と人権の本展示会――――P. 7
情報コーナー――――P. 8


## 『学校図書館に司書を置いてどうするの？』

市制100周年を迎える〝読書のまち八王子〟は、読書を通して学びを愛する街でありたいと願っています。どうしたらより多くの子供たちに読書を楽しんでもらえるかを命題に、行政（八王子市教育委員会）のご支援をさせて頂く機会がありました。行政は様々な企画を立て、子供たちが図書館に来る機会を増やそうと研鑽努力していますが、来る子供は来るが、来ない子供は来ない。どういう投げかけをすれば図書館に足を運んでもらえるようになるのか？思い描く図書館利用率の伸びが得られていない事は否めません。支援活動からの学びは、蔵書数を増やすことが解ではなく、本屋で売れている書籍を揃えることも解ではない、などの気づきを得たことです。

育てる会が目指すべき本丸は、学校図書館に司書を置くことがゴールではなく、同じゴールを目指す行政に「子供たちに読書を楽しんでもらうには、学校図書館がなすべきことは何なのか？」を提案していくことではないかと感じています。（中野正隆）


八王子に学校図書館を育てる会広報紙
二〇一八年四月二十九日発行　第二二号

## ゆめ基金助成「子どもの本を読みましょう」
### 広瀬恒子さん講演（12月2日）
### 「2017年子どもの本をふりかえって」

毎年恒例となっている広瀬恒子さんの講演会が行われました。揺れ動く現代社会のなかで子どもたちが少しでも豊かな成長を遂げるために、今どのような本が必要とされているのか、大人である私たちが本を手渡すことでできることは何なのかを考えさせられる時間でした。

まず講演の初めに、町から本屋さんが消え、本の消長サイクルが早いことが指摘されました。本来、子どもの本というのはある程度の時間をかけてゆっくりと広がっていくものですが、大型店や通販サイトでの購入の普及により短期的な売り上げが重視されてしまい、多くの本が出版されてもすぐに消えてしまうのです。一方で昔から読み継がれている絵本『からすのパンやさん』『だるまちゃん』シリーズは今なお売れ続けています。そして本の形態としてはソフトカバーで読みやすさを狙った本づくりが進み、エンターテイメント化に拍車がかかっています。これらの状況に危機を抱き、いま一度考え直さなければ、児童書界の成長は難しいという印象を受けました。

本の紹介では、カメラや写真の技術の向上によって本づくりが変化してきたこともあり、ノンフィクションの分野が活発になっているというお話がありました。テーマの多様化も目立っており**『すごいね！みんなの通学路』（ローズマリー・マカーニー／著　西村書店）**では通学路に焦点を当て、国によって違う生活の子どもたちの様子まで伝えています。

民話やむかし話では、今までになかったようなアプローチをしている異色の本が出てきており、他国を知るきっかけとして民族的な宗教を扱った**『イードのおくりもの』（ファウズィア・ギラニ・ウィリアムズ／文　プロイティ・ロイ／絵　前田君江／訳　光村教育図書）**や、10年ほどの歳月をかけて絵にこだわった韓国の昔話の**『金剛山のトラ』（チョン・スンガク／絵　クォン・ジョンセン／再話　かみやにじ／訳　福音館書店）**が紹介されました。

また昨今の絵本については、人間の価値観は多様であることや固定観念から自由になることを訴えている**『木の上のおうちへようこそ』（ドロシア・ウォーレン・フォックス／作　おびかゆうこ／訳　偕成社）**の紹介がありましたが、この絵本の主人公のおばあさんにはモデルがいるときき驚きました。自分の好きな生き方

を貫く姿は、読者である私たちにとても勇気をくれることでしょう。しかし、少し残念なことに、日本の絵本についてはストーリー性がなくなってきているという指摘もありました。そちらを今後の絵本業界の課題とし、物語の力を感じられる作品が出てくることを期待したいです。

児童文学の読み物では、言葉が出にくい障がいをもった主人公が社会のなかでどのように生きていくかを描いた**『ぼくとベルさん』（フィリップ・ロイ／著　櫛田理絵／訳　ＰＨＰ研究所）**が印象に残っています。

誰もが生きやすい社会にするためにも、子どもたちに様々な本を手渡していきたいと思いました。（K）

| | タイトル | 著者 | 出版社 |
|---|---|---|---|
| 絵本 | ごちそうの木 タンザニアのむかしばなし | ジョン キラカ | 西村書店 |
| | 猫魔ヶ岳の妖怪（日本傑作絵本シリーズ） | 斎藤 隆夫, 八百板 洋子 | 福音館書店 |
| | なんにもせんにん（チューリップえほんシリーズ） | 唯野 元弘 | 鈴木出版 |
| | イードのおくりもの | ファワスィア キフニ・ウィリアムズ | 光村教育図書 |
| | 金剛山のトラ 韓国の昔話（世界傑作絵本シリーズ） | チョン スンガク, クォン ジョンセン, かみや にじ | 福音館書店 |
| | てをつなぐ | 鈴木 まもる | 金の星社 |
| | すごいね!みんなの通学路 | ローズマリー マカーニー | 西村書店 |
| | 1スラムのくらし（シリーズ 知ってほしい! 世界の子どもたち——その笑顔の向こう側） | 米倉 史隆 | 新日本出版社 |
| | きのうえのおうちへようこそ! | ドロシア・ウォーレン・フォックス | 偕成社 |
| | わたしたちのたねまき: たねをめぐるいのちたちのおはなし | キャスリン・O. ガルブレイス | のら書店 |
| | おかしなめんどり（チューリップえほんシリーズ） | 林 なつこ | 鈴木出版 |
| | 夏がきた | 羽尻 利門 | あすなろ書房 |
| | ゆきのひのおくりもの | ポール フランソワ | 鈴木出版 |
| | ルラルさんのだいくしごと | いとう ひろし | ポプラ社 |
| | サイモンは、ねこである。 | ガリア バーンスタイン | あすなろ書房 |
| | ウサギのすあなにいるのはだあれ? | ジュリア ドナルドソン | 徳間書店 |
| 児童書 | グリムのむかしばなし! | ワンダ・ガアグ, 松岡 享子 | のら書店 |
| | 絵物語 古事記 | 富安 陽子 | 偕成社 |
| | 犬とおばあさんのちえくらべ: 動物たちの9つのお話 | アニー・M.G. シュミット | 徳間書店 |
| | プーカの谷: アイルランドのこわい話 | 野田 智裕, 渡辺 洋子 | こぐま社 |
| | ぼくとベルさん 友だちは発明王 | フィリップ・ロイ | PHP研究所 |
| | ケータイくんとフジワラさん | 市川 宣子 | 小学館 |
| | ジョージと秘密のメリッサ | アレックス・ジーノ | 偕成社 |
| | 僕は上手にしゃべれない | 椎野 直弥 | ポプラ社 |
| | いい人ランキング | 吉野 万理子 | あすなろ書房 |
| | 一〇五度 | 佐藤 まどか | あすなろ書房 |
| | 弟は僕のヒーロー | ジャコモ マッツァリオール | 小学館 |
| | マーシャの日記—ホロコーストを生きのびた少女 | マーシャ・ロリニカイテ | 新日本出版社 |
| | アンネ・フランク | 早乙女 勝元 | 新日本出版社 |
| | 正義の声は消えない —反ナチス・白バラ抵抗運動の学生たち | ラッセル フリードマン | 汐文社 |
| | いのちは贈りもの ホロコーストを生きのびて | フランシーヌ・クリストフ | 岩崎書店 |
| | ファニー 13歳の指揮官 | ファニー・ベン=アミ | 岩波書店 |
| | ウィッシュガール | ニッキー・ロフティン | 作品社 |
| | 図書館にいたユニコーン（児童書） | マイケル モーパーゴ | 徳間書店 |
| 資料 | 「物語と歩いてきた道」インタビュー・スピーチ&エッセイ集 | 上橋 菜穂子 | 偕成社 |
| | 絵本に魅せられて | 佐藤 英和 | こぐま社 |

# 特集　会員が見つけたこんな本・あんな本

昨年度に続き絵本・児童書・ＹＡ・知識の本をテーマに読書会を開き、参加者と様々な本を楽しみ交流をしました。今号では会員による一押し本を紹介します。

児童書

## 『テディが宝石を見つけるまで』

パトリシア・マクラクラン作／こだまとも子訳
あすなろ書房

吹雪の日に車が動かなくなり立ち往生してしまう。近所に助けを求めに行ったきり母親はいつまでたっても帰らない。幼い二人はこのままここにいたら雪に埋もれて凍えて死んでしまうと考え外に出て歩き出すが迷子になってしまう。そんな時、一匹の犬と出会う。犬のテディは、言葉が話せる。プロローグで「犬は言葉をしゃべります。でも、詩人と子どもたちにしか聞こえません」と作者が語っている。テディは詩人と暮らしていたが、詩人はすでに亡くなっていて二人と一匹は雪に閉ざされた家で何日かを過ごす。雪が止んだ日、詩人の弟子エミリーがテディの様子を見にやって来て事態を知り、二人の両親に連絡。迎えに来た父は意外なことを発見する。

表題の宝石とはいったいなにか？短くて優しい文章に引き付けられ心にしみる詩のようなお話。（K）

絵本

## 『たくさんのドア』

アリスン・マギー作／ユ・テウン絵
なかがわちひろ訳／主婦の友社

あなたはどんなひとになり
いったい　どこへ　いくのだろう
どうやってこたえをみつけていく
のだろう

あなたの前にはたくさんのドアがあります。毎日新しいドアを開けて　たくさんの新しいことに挑戦していってほしい。そんな応援歌のような絵本。

絵も幼い子が描かれているが、卒業や入学などの時に送りたい一冊。（K）

YA

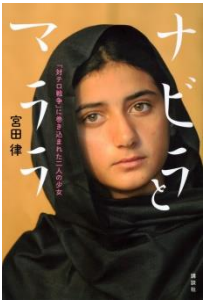
## 『ガラスの封筒と海と』
## アレックス・シアラー著／金原瑞人・西本かおる訳
## 求龍堂

一年前に船乗りの父親を海難事故で亡くしたトムは、ある日、ラジオから流れる曲にアイディアを得て、手紙を瓶に入れて海に流してみました。届いた返事の差出人は、テッド・ボーンズ、海で亡くなった船乗りたちが行きつくと言われている「デイヴィ・ジョーンズの監獄」に住んでいる死者だったのです。誰かのいたずらなのか、本当に死者から返事が来たのか…。テッド・ボーンズの手紙は、悩める若者を思いやる武骨な思いやりに溢れています。半面、海底から出てきた死者の視線を感じさせ、時々ゾッとして後ろを振り返りたくなりました。明るい陽射しと潮の香りに満ちたこの物語には、感動のラストが待っています。

（S）

知識の本

## 『ナビラとマララ』
## 「対テロ戦争」に巻き込まれた二人の少女
## 宮田律著／講談社




マララさんは、若くしてノーベル平和賞を受賞しました。マララさんは女子の教育の大切さを訴えていた折、「パキスタン・タリバン運動」のテロリストに銃撃されましたが一命をとりとめ、それに屈することなくさらに自分の主張を世界に発信続けました。

もう一人、ナビラさんを知る人は少ないでしょう。彼女もテロの戦争に巻き込まれた少女の一人です。マララさんと違う点は、彼女は、ＣＩＡの誤認によって、アメリカ本土からの操作による、ドローンの攻撃を受け、一緒に畑仕事をしていたおばあさんをなくしてしまったという点です。ナビラさんたちへの誤爆をアメリカは認めようとはしませんでした。ナビラさんもまた、テロ戦争がなくなるためには、イスラム世界の子どもたちへの教育の重要性を訴えているのです。

この本は、ナビラさんのことを中心に描かれていますが、それとともに、中東の国々の複雑な事情も分かりやすく書かれています。中高生にぜひ読んでもらいたい一冊です。

（M）

## ２９年度要望書とその回答について

前年文科省より出された通知書「学校図書館の整備充実について」に添付された「学校図書館ガイドライン」に基づき要望書を作成しました。要望内容とその回答(→)は以下の通りです。(紙面の都合で大略のみ)

**１　すべての小・中学校へ専門・専任・正規の学校司書を常駐させてください。**

→本市では平成２８年度より司書資格等を有する「学校司書」を、全市立小中学校に週一回、専任で配置しています。今後は課題等を検証するなどし、適正な配置につなげていければと考えております。

**２　調べ学習等に十分耐える資料の充実をお願いします。**

→司書教諭と学校司書と連携をとりながら「学校図書館図書標準」に基づいた計画的な蔵書の整備・更新が行われるよう、学校と調整を図ってまいります。

**３．学校図書館サポートセンターの機能充実をお願いします。**

→学校への訪問支援、ホームページや広報紙による学校図書館の活用に役立つ情報提供、人材・情報ネットワークの構築推進、市立図書館との連携強化など、総合支援のさらなる充実を図ってまいります。

**４　その他**

**・学校図書館システムの作業工程を教えてください。**

→平成３１年度の学校図書館システムの導入に向け、夏休みの期間中に配線工事を行う予定です。

**・学校図書館に教科書一式を設置してください。**

→学校図書館サポートセンターに貸出し用の図書を用意しております。

**・調べる学習コンクール及び子ども体験講座を継続実施してください。**

→図書館部と連携し、引き続き実施していきます。

(以上、平成 30 年 4 月 23 日　文書にて回答)

育てる会毎年恒例の学校図書館見学会に代えて、今回「下町見学会」として、東京スカイツリータウン・ソラマチ９階にある「郵政博物館」と港区芝にある「人権プラザ」に行ってきました。

## ＊＊郵政博物館＊＊

ソラマチタウンの中にこんな空間があったのかと思わせる見ごたえのある博物館でした。目的は、企画展の「アンデルセン展」でしたが、企画スペースに行く前の郵便や通信の歴史や切手の常設展示が充実しており、かなりの時間を過ごしました。博物館のパンフレットにある通り、郵便の歴史と文化を楽しく学べる仕掛けがたくさんありました。

日本最大約33万種の切手（これを全部見ようとするだけで1時間はあっと言う間に立つと思われます）や、ペリーが江戸幕府に献上した「エンポッシング・モールス電信機」などの重要文化財、デジタル技術を駆使した子供向けのゲームや体験型コンテンツで”伝える気持ち”を体感でき、楽しめました。

# 本に触れる旅――会員研修

WWW.POSTALMUSEUM.JP/

HTTPS://WWW.TOKYO-HRP.JP/INDEX.HTML

「アンデルセン展」では、各国語による「アンデルセン物語」の上映や彼の趣味の切り絵と愛用のハサミ、旅行鞄、コート、ペンなども展示され、関連の記念グッズなども見ることができました。

## ＊＊人権プラザ＊＊

「読む人権」という企画展が開催されているということで見学しましたが、実に勉強になる展示会でした。一言で人権といっても様々な分野があることに改めて気づかされました。人権、子供、障碍者、同和問題、アイヌの人々、外国人、ハンセン病、性の多様性。人権に関わる書籍が展示されて、実際に読むことができ、テーマごとに各分野の専門家が選書した本は、とても参考になりました。各分野のパンフレットも多彩で読み応えあるもので今後の学校図書館の仕事に活用したいと思います。

読む人権の本、木村草太さんのこの一冊『天上の葦』（太田愛著／KADOKAWA／2017年）

# 情報コーナー

## 平成30年度　本会の活動予定

子どもの本から世界を知ろう

7月14日（土）午後1時30分から

『世界のともだち』シリーズ（偕成社）の編集担当者と取材したカメラマン片野田斉さんを迎えて。

広瀬恒子さん講演会

12月2日（日）午後1時30分から

「子どもの本を読みましょう」

本会ホームページやチラシでご確認ください。ご参加お待ちしています。

## そのほかの情報

八王子市学校図書館ボランティア研修会

スギヤマカナヨさん「子育てと本」

5月30日（水）10時～、教育センターにて

学校にボランティア登録をしている方対象

講演会「保護者も楽しむ子どもの調べ学習」

6月2日（土）午前10時30分～、中央図書館にて

講師：鎌田和宏さん（帝京大学教授）

参加対象は大人です。夏休みの自由研究を家族で楽しむチャンスです。

問い合わせ・受付：八王子市学校図書館サポートセンター（受付開始　5月7日）

9時～5時　電話で070-5021-8092

## 会員募集

**正会員…本会のすべての活動に参加できます。**

**入会金500円、年会費1000円です。**

**賛助会員…広報紙やイベントの情報をお届けします。**

**本会の活動を支援してくださる個人、団体の方。年会費一口　1000円です。**

――編集後記――

八王子の学校図書館も、人の配置、システムの導入、公共図書館の資料支援（物流）など、少しずつ進化をしています。授業の中で、また自由な探求の場として、子どもたちの知りたいに応える学校図書館となることを願い、今年も活動をスタートしました。（O）